



佐保会徽章

奈良女子大学同窓会佐保会 滋賀支部だより

2023年2月10日
佐保会滋賀支部
会員数 415名

支部会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。
昨年6月の総会以降、支部の活動も徐々に再開し
つつあります。10月には福嶋昭治先生を講師にお迎
えして、おうみ佐保塾講演会を2回にわたって実施
し、参加者に大変好評をいただきました。また、9
月の（一社）佐保会代議員会・総会、11月の共催佐
保塾（神戸）にも参加することができました。



守山市なぎさ公園

今後、少しずつでも活動の輪が広がられればと思っています。

《次期総会のお知らせ》

次期総会について、下記のとおり計画を進めていますのでお知らせします。

なお、詳細は5月に改めてご案内いたします。

日時：令和5年（2023年）6月10日（土）10時30分から *今年度は土曜日開催です。

会場：琵琶湖ホテル 5階 萩の間

講演：滋賀短期大学名誉教授 原知子氏（S54家食）予定

★★★★ 第24回 第25回 おうみ佐保塾 ★★★★★

コロナ禍で「おうみ佐保塾」も令和2年度は開催を見送り、3年度の第23回はZOOM配信のみで実施しましたが、今回、三年ぶりに、会場形式かつZOOM配信併用で開催しました。感染防止対策の一環とはいえ、会場運営とZOOM配信を同時に行うのは初めての試みでしたので、無事実施できて一同ほっと胸を撫でおろした次第です。それでも回を重ね今年度は第24回と第25回。早いものです。立ち上げ当時から関わらせていただいているものとして感慨深いものがあります。



講師は園田学園女子大学名誉教授・福嶋昭治先生。第24回では「源氏物語の『面白さ』～千年読み続けられた物語の魅力」、第25回では「紫式部という人～歌集と日記にうかがうその人となり」と二回にわたり、源氏物語とその作者紫式部についてお話していただきました。2024年NHK大河ドラマが紫式部と源氏物語を描く「光る君へ」と決定され、はからずもタイムリーなテーマとなりました。

第24回は急に秋めき冷たい雨が降る10月7日、第25回はうって変わってさわやかな秋晴れの10月28日、一般参加を含め、会場のキラリエ草津には大勢の皆様においでいただきました。

第24回 源氏物語の「面白さ」～千年読み続けられている物語の魅力～

源氏物語は千年もの長きにわたり読み継がれています。どうしてそんなにも長きにわたり

人々の心をとらえるのか。それは「面白い」から。それはそうでしょう。誰も面白くない物語を読みたいとは思いません。でも時代とともに面白いと思われることも変わってくるはずです。ということは源氏物語には時代を超えた面白さがあるのでしょうかね。ではその「面白さ」は何か。それは「人生」を描いている面白さだと、福嶋先生はおっしゃいます。

幼くして死別した母桐壺更衣への思慕が藤壺女御への道ならぬ恋となり、19歳で後の冷泉帝が誕生、光は贖えない罪を背負います。40歳で女三宮と結婚、そして薫誕生。女三宮の不義を知っているが黙っていようと決心する光に、「父も知っていたのではないか」という疑念が生じます。

リセットできない過去を引きずって、それでも未来を見据える人生。「源氏物語」では、光を中心に子の世代、孫の世代そして親の世代も含めた4世代にわたる人々の人生が描かれますが、千年の時を経てなお、人生の真実は変わらないのでしょうか。

第25回 紫式部という人～歌集と日記にうかがうその人となり～

紫式部の人生についてのお話です。いったい彼女はどのようにして時代を超えた名作を生み出す「作家の目」を持つに至ったのでしょうか。

紫式部が源氏物語執筆より前、父親の藤原為時が越前国に赴任するのですが、彼女はそれに同行します。この赴任、70人を超える大人数で越前に来航した唐人との交渉を漢詩の巧みな為時に託そうという朝廷の思惑がありました。ですから、ひょっとしたら彼女にも唐人と会う機会があったかも知れないし、そうでなくても勤めから帰った父親は利発な我が娘にその日接した唐人の様子を物語ったことでしょう。そして都を離れた土地の人々の暮らしぶり、多感な女性の目にはどう映ったことか。

彼女はそんな身の周りの全てを自分の目で見て肌で感じ、独自の物差しを得たのだと先生はおっしゃいます。

そして親子ほど年の違う夫との短い夫婦生活を経ての宮仕え。独自の物差しをもってみると、当代一の権力者藤原道長のそば近く華やかな世界に身を置きながら、その生活には、どこか融け込むことの出来ない違和感があるのです。皆とは少し距離を置いて観察してしまう。孤独です。孤独ですが、これぞ作家の目。千年にもわたり読み継がれている名作「源氏物語」を生み出した原動力なのでした。

第24回は会場に47名、オンラインで12名、第25回は会場に44名、オンラインで10名、延べ113名。佐保会員以外の一般の方も大勢ご参加くださいました。これもひとえに講師の福嶋先生、並びにご協力いただいた皆様のおかげと役員一同深く感謝いたしております。

まだまだコロナは収束する兆しを見せません。おうみ佐保塾はこれからも慎重に感染防止対策をしながら開催していきたいと思っております。皆様、何卒よろしくお願いたします。最後に古典文学つながりで、本部の講演会の告知を。



佐保会本部主催講演会

「古典で学ぶ平安時代のスイーツ」 講師：前川佳代氏、宍戸香美氏

2023年3月18日（土）13：30～15：30 奈良県文化会館2階集会室ABにて

参加費：1000円（学生500円）菓子のお持ち帰りあり *詳しくは佐保会HPへ

はて、紫式部はどんなスイーツを楽しんでいたのでしょうか♪

(S60 理物 松本)

★★★ 第22回 佐保塾 史跡巡り 神戸旧居留地散策 に参加して ★★★

共催佐保塾は兵庫県支部担当で、11月11日（金）、神戸の旧居留地散策が暖かな小春日和に恵まれて開催されました。近畿中心に48名が参加。滋賀支部からは、浅野純子さんと山仲が参加しましたので、おしゃれな神戸まち歩きの様子を報告させていただきます。

JR三ノ宮駅に9:30集合。野口理事長さん、門脇兵庫県支部長さんのごあいさつの後、4班に分かれてタウンガイドKOB24のガイドさんの案内で旧居留地散策に出発しました。

道中、神戸の歴史、駅や道路の変遷、阪神・淡路大震災の影響など、地元ガイドさんなら



日本マラソン発祥地の碑

ではの神戸愛あふれる解説をお聞きすることができました。歩道の植込みもよく手入れされていて素敵なのですが、その中にさりげなく配置されているモニュメントの謂れも興味深かったです。また、スポーツの中には、神戸に来た外国人から神戸に伝わり、そこで親しまれて全国に広がっていったものがいくつもあるという話でした。ルミナリエ会場として知られた東遊園地がスポーツを楽しむ拠点だったようです。ここには、震災の犠牲者を悼むモニュメントが設置されていました。



震災犠牲者を悼むモニュメント



宮城道雄生誕の碑

有名な花時計は、安藤忠雄氏が寄贈されたことも図書館前に場所を移して整備されていました。

さて、旧居留地です。幕末の日米修好通商条約などにより開港が決まった5港のひとつである神戸港は、1868年の開港です。外国人の居留地は港近くの500m四方に限られ、126区画に分割されて競売で売却、整備されていきましたが、1894年の日英通商航海条約などにより不平等条約が改正されたため、1899年に日本に一斉返還されました。



図書館前の花時計

その後、ビジネスの中心地として発展していったのですが、第二次世界大戦、特に神戸大空襲で建物の約70%が破壊され、戦後の復興期も、東京への本社機能移転などが続き、空室や老朽化が目立ちはじめます。そんな中、1988年の旧神戸商工会議所ビル保存運動をきっかけに近代洋風建築物や歴史的景観が見直され、ブティックやレストラン、カフェなどに活用されはじめ、やっと活気がもどってきました。

そこを襲ったのが1995年の阪神・淡路大震災です。旧居留地内の106のビルが被害を受け、22のビルは解体されたそうです。大きな被害でしたが、それから28年、街並みの良さを継承しつつ着々と復興を進めて、今や「最も神戸らしい洗練された街」として活況を呈しています。

旧居留地に建つビルは、日本の近代建築の先駆けたる歴史の重みと異国情緒を漂わせてどっしりと私たちの目を引きつけますが、戦争や震災を経て、一つとして元の姿をとどめているものはありません。

明治13年頃竣工の旧アメリカ領事館であった旧神戸居留地十五番館が最も古いのですが、阪神・淡路大震災で全壊し、倒壊前の部材を70%使用して耐震構造で復元されたもので、



十五番館外観とケーキ



再現しています。手間暇も費用も余分にかかる方式ですが、街並みを愛する神戸には、このような形で建て替えるビルが他にも結構あるとのことでした。

日本真珠会館と神戸市立博物館は昭和になってからの建物ですが、優れた建築様式の建物として国の登録有形文化財に登録されています。市立博物館内には居留地の昔と今のジオラマが並べて展示されていて、興味深く見学しました。

シップ神戸海岸ビル（左）と商船三井ビルディング



神戸の震災からの復興はまだまだ続いていて、市庁舎も一部工事中です。港神戸の素晴らしさを受け継ぎ、残しながら、たくましく復興していく姿に、神戸の底力を見た思いがしました。

最後に、お世話くださった兵庫県支部の皆様へ深く感謝申し上げます。来年の担当は奈良支部の皆様です。楽しみですね。 (S53 家食 山仲)

★★★ 支部会員紹介 「月曜カフェ」塚田多佳子さん ★★★



「私、ランチのお店することになったんよ。6月にオープン予定で、今お揃いのエプロンとか決めていて・・・」塚田さん (S51 文教) から楽しそうに話を聞いたのが今年の春頃のこと。

お店を切り盛りするのは、高校の同級生の方々。退職したご主人との飲食店経営で、その楽しさを知った友達の、もう一度やってみたいとの呼びかけにお料理好きな仲間が賛同し、『月曜カフェの会』を始めたそうです。坂田駅近くのフタバヤの敷地内にある福祉スペースの休業日を利用しての営業です。

ずっと話に聞いていた美味しい自慢のランチを今日やっと、佐保会支部の仲間へ食べに行きました。(坂田駅を降りるの初めてだ・・・) 本日のメニューは鶏のクリーム煮、ジャンバラヤ、あんかけそば。お手製ならではの優しい美味しい味と、どれも500円というお値段で大満足。追加のコーヒーやシフォンケーキもそれぞれ100円。



予約の弁当を取りに来られたお客様、常連のお客様で店は、始終程よい混み具合でした。何よりもスタッフの皆さんの満足そうな笑顔がとても印象的で、羨ましくさえ思いました。

(S56 家住 小南)